輸　血　部

採血業務の問題点について

発表者　長嶋清子

採血業務の範囲の中で血液提供者である供血者に充分な充実感、満足感を得て帰宅していただくことは、ひいては患者につながることでもあり採血と言う直接行為と共に大きな比重を占めております。

一般に供血者は採血経験があるにもかかわらず採血に関する正しい知識を持っている者は皆無と云ってよく中には却って誤った恐怖心を植付られていることすらあります。

従って供血者の多くは漠然とした不安感、恐怖心を持ち針を刺すことによる苦痛と局所障害を心配して来院する傾向があります。

一般献血は自己の意志によるものですが、当病院の如く家族供血の場合は義理によることが多いので供血適格者として採血室に入ってからも体の不調を訴えたり血液型が不明であるなど云い出すこともある様な状態です。

採血椅子に腰をおろし腕を出していただく迄の様子などからおおよその心理状態を察し気軽に話しかけることにしておりますが、初めての人、又、強度の恐怖心を持っている供血者には此の話しかけは時間の経過を忘れさせるためにも絶対必要な精神介助であり僅か6～7分の短い採血時間ではありますが個々の年令、程度、環境に応じた話題、説明などから気分を和らげる様努めております。

具体的な内容としましては

1　供血者の年令及び必要体重

2　全血液量

3　年間採血回数

4　採血による影響

5　健康診断を兼ねる

6　其の他　血液の有効期間　健康管理　日赤献血との違っている点　等です。

過去3ケ月間におきた障害数は、7月3件、8月5件、9月13件　合計21件ですが、このうち痙攣発作を伴った者3名、其の他は顔面蒼白、発汗、嘔気等の症状で何れも短い時間で快復しております。即ち50人に1人位の程度で障害者が出ていることになります。これらの原因としては

1　普段健康であり平常の生活環境にない病院の消毒薬の匂に対する嫌悪感

2　徹夜勤務等による睡眠不足

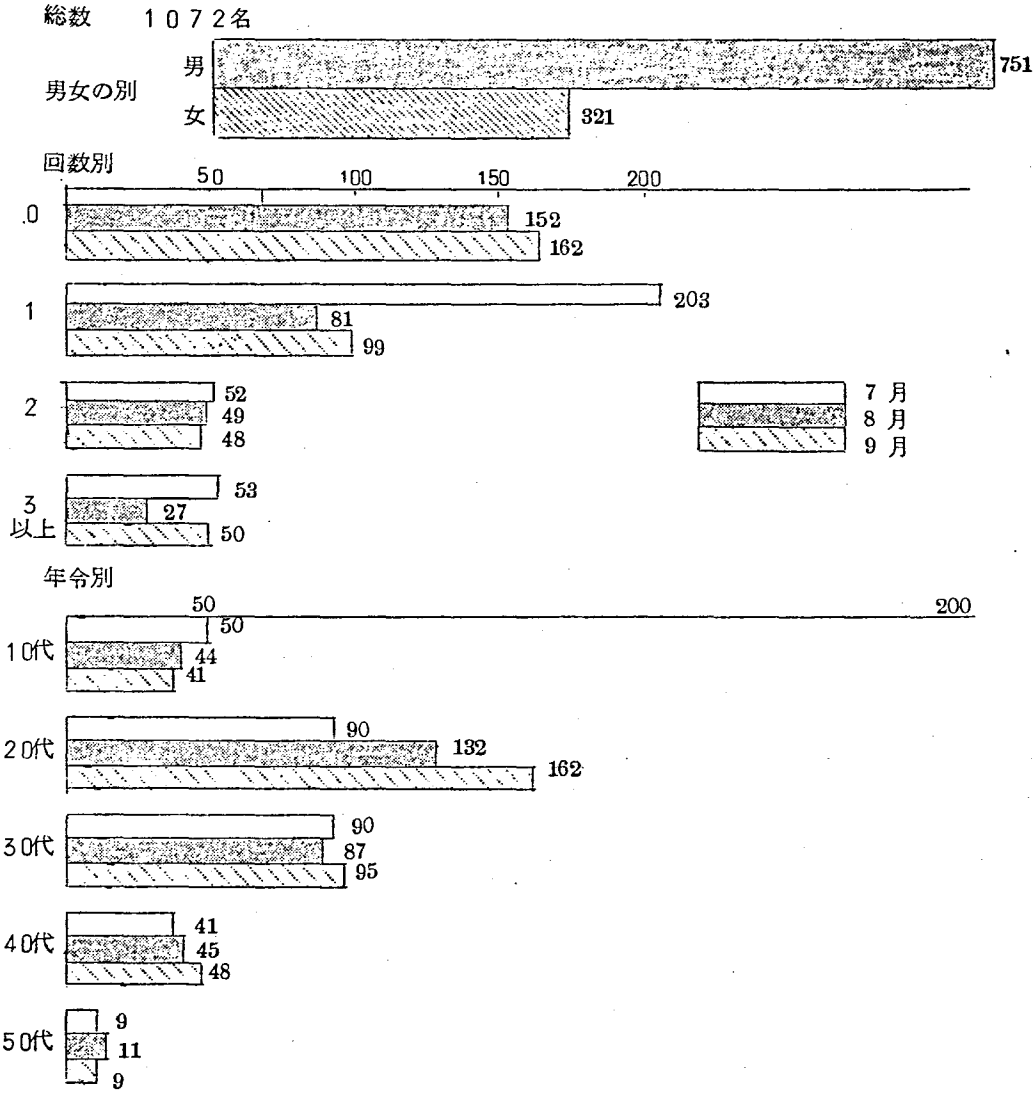
3　空腹と緊張

4　連鎖反応によるもの

5　先入感によるもの

6　血液を見ることにより生じた本能的、生理的な恐怖感

等が考えられます。従って採血瓶は極力目にふれることのない様注意しておりますが、連鎖反応によるものは待合室と休息室が一部屋で兼ねており又狭いことにも問題があります。その他社会的、生理的なものから生ずる原因については今の状態では輸血部ではどうすることも出来ないものと考えられます。過去３ケ月間の供血者の採血歴を調べて見ますと次の様になっております。



採血年令１６才～６０才（日赤献血６５才）　年間男子5回、女子3回迄は供血可能であるにもかゝゝわらず現実には２０才～３０才代の者が約７５％を占め供血年令層が極めて狭く若年令層に大きく負担がかゝっている様に見受られます。又、供血層の薄く片寄っていることは供血者を依頼する際の困難なことが予想されます。一人でも多くの方達が血液に理解を深めていただくことは以上の様な問題も除々に解決してゆく糸口になると思われます。

献血のしおり

当病院で輸血をうける患者さんへ貴重な血液を提供して下さる皆様へ、わたくしたち関係者一同深く感謝いたします。あなたの暖かいまごころと健康な血液で患者さんが一日も早く健康を回復されますよう皆様とともにわたくしたちも心からお祈り申し上げます。

つぎの事柄は供血される方にいずれも必要な注意ですからまえもってかならずお読み下さい。

採血する量　当輸血部で採血する量は1回２００㎖です。

採血の影響　供血される方の健康には充分な注意を払っておりますので上記の採血量でも身体に対する悪い影響はまったくありません。安心して供血して下さい。

供血の条件　供血される方の健康を保持し安全な輸血を行なうために、当輸血部ではつぎのの条件に適した方からのみ供血をお受けします。

年　令　１６才～６０才

性　別　男女の別は問いません

体　重　男子４５kg以上，　女子４０kg以上

血　圧　最高血圧１００～２００㎜Hg　　最低血圧５０～１００㎜Hg

血　液　貧血のない方

妊　娠　現在妊娠中の方および過去６ケ月以内に妊娠していた方は不適当です。

健康状態　現在健康な方。現在健康でも下記の方々は採血できません。

イ、　過去に性病．黄疸．マラリア．心臓病．糖尿病．痙攣性疾患にかかったことのある方、過去３ケ年以内に活動性結核にかかったことのある方。

ロ、　過去６ケ月以内に大きな外科手術や輸血を受けた方または、１週間以内に予防接種を受けた方（狂犬病予防接種の場合は１カ年）

ハ、　過去１ケ月以内に輸血の目的で血液を採取した方、および１ケ年以内に同じ目的で女子は3回男子は5回以上採取した方。

上記のほか採血に適当でないと思われる方は採血ができないこともあります。

採血前後の注意

1. 採血の日時はなるべく早く受持医、看護婦と打合わせて、はっきり決めておいて下さい。
2. 採血の前夜は睡眠を充分にとり、身体を休めておくようにして下さい。
3. 採血直前の食事はできるだけ御遠慮下さい。
   2～3時間前に軽い食事をするのはよいことです。
4. 採血後30分間は静かに休憩して、その後半日位ははげしい運動はさけて下さい。
5. 採血中または採血後に気分が悪くなったり、めまいをおこすことがまれにありますがもし気分が悪くなったら我慢しないで、近くにいる医師または看護婦に連絡して下さい。

教　務　部

チェックリストの効果について

発表者　横山洋美
看護学校教務一同

I　動　機

新カリキュラム以来看護の分野が広範囲となり、対象の理解のみに重点が置かれ、基本的技術を軽視する傾向にある。そこで一年の早期に看護の基本を裏付けと関連させ、確実に身につけさせたいとの意図でこの研究に当った。

II　目　的

1. 看護の基本を裏付けと関連させ確実に身につけさせる。
2. 看護に興味を持たせる。

III　研究方法

1. チェックリストを作成し事前学習をさせる。
2. 臨床場で基礎実習をさせ、学生一人一人についてチェックする。
3. データーの分析
   1）学生からのアンケートの分析
   2）チェックリストの分析
   3）学生の反省会記録の分析
   4）臨床指導者からのアンケートの分析